

A portrait of Boris Groys, a man with grey hair and glasses, wearing a dark blue jacket over a plaid shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is slightly blurred, showing what appears to be a desk with books and papers.

The Discontent with Art: Fluidity and Preservation

Photo by : Katsuhiro Saiki

ボリス・グロイス教授講演："The Discontent with Art: Fluidity and Preservation"

2017年1月13日（金）17:00-19:00

東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム2

使用言語：英語

備考：入場無料・事前登録不要

主催：東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム（IHS）」
教育プロジェクト1「生命のかたち」

美学、哲学、メディア理論の分野で幅広く活躍されている美術批評家のボリス・グロイス教授（NYU）をお招きし、アーカイヴと美術館の現代における意義をめぐりレクチャーをしていただきます。制作とキュレーションの境界がますます曖昧になった現代、作品を展示し保存することの意義はいかに変化しているのか。私たちの“mode of life”を露わにしその新たな「かたち」を提示する機能を担う、重要な社会的・批評的営為としての現代アートをめぐり、いま最も注目される美術批評家からお話を伺います。

問い合わせ先

IHS・教育プロジェクト1「生命のかたち」：project1@ihs.c.u-tokyo.ac.jp



The University of Tokyo
Integrated Human Sciences Program
for Cultural Diversity